

12月

みんなくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■時間 14時30分から15時30分(予定)

■展示観覧料が必要です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館(みんなく)の研究者が来館された皆様の前に登場します! 「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別!

どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

5日

(日曜日)

話者: 福岡正太(文化資源研究センター准教授)

話題: 西ジャワの作曲家~ナノ・S.

場所: 本館展示場内ナビひろば

12日

(日曜日)

話者: 寺田吉孝(民族文化研究部教授)

話題: 南インドの音楽とグローバル化

場所: 本館展示場内ナビひろば

19日

(日曜日)

話者: 小林繁樹(文化資源研究センター教授)

話題: 【年末年始展示イベント「うさぎ」関連】

年末年始展示イベント「うさぎ」と職員研修会

場所: 企画展示場B入口

26日

(日曜日)

話者: ピーター・J・マシウス(民族社会研究部准教授)

話題: 展示場で民族植物学の旅に出よう: 食糧、食糧の確保、冬のごちそう

場所: 本館展示入口

1年間みんなくに何度でも入館できる 「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいあります。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引

◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引

◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。

(電話06-6877-8893/平日9:00~17:00)

編集後記

「国際生物多様性年」の本年、COP10はビジネス上の南北問題を浮き彫りにした。生物多様性は、生態系、種、ある種内での遺伝子、3点での多様性を指すが、最後が本号の特集にかかわる。品種改良とはヒトに都合の良い遺伝子の固定化、すなわち遺伝子の多様性を減じる行為だ。遺伝子多様性の保持と品種改良のバランスの難しさは、万年氏の論のとおりだし、品種を文化財として残すことで種全体の遺伝子多様性を保持する試みが小宮氏の論である。

自然界では各地域環境に適応した固有種、いわば品種が生まれる。これに関して在来種と人為的な移入種との交雑問題を思いたす。固有種を守るとして交雑種の駆除が唱えられるが、交雑は遺伝子多様性を増やすから喜ぶべきとの論もある。人為的行為は是正も駆除の論拠のひとつだが、地球史の長い目で見ればヒトの存在自体も生態系の一部、人為を是正しようと人為を重ねても詮無いこと、生物進化は自然に任せるほかないか。という訳で、わたしにとって生物多様性の問題はクリアでない。読者諸賢はどのようにお考えだろうか。(久保正敏)

●表紙: 川を泳ぐフタ。バングラデシュの人口のおよそ9割はムスリムであり、フタを忌み嫌っている。しかし、国内を広くまわると各地でフタの群れをつれていいる人びとに出会う。水の豊かなデルタにおいて、フタもまた水に適応しているようにみえる。(撮影・池谷和信)

次号の予告

特集

ウサギ

月刊みんなく 2010年12月号

第34巻第12号通巻第399号 2010年12月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

電話 06-6876-2151

発行人 西尾哲夫

編集委員 久保正敏(編集長) 朝倉敏夫 榎永真佐夫
庄司博史 中牧弘允 山中由里子

編集アドバイザー 山内直樹

デザイン 宮谷一孝

制作・協力 財団法人千里文化財団

印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

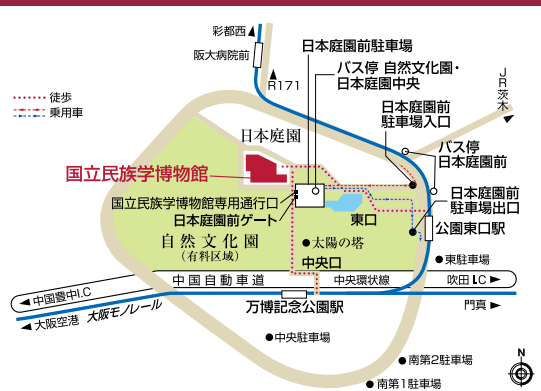
交通案内

●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分

●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)

●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてください。



みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

